

能登町文化財レスキュー^{ニュース}-News

第0号 発行日：令和6年4月5日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは??

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

能登町の文化財レスキューへの動き

1月1日に発生した地震により、奥能登地方は大きな被害を受けました。建物の倒壊、津波、火災による被害、ライフラインの遮断により、避難・支援活動ともに困難を極めました。

こうした中で、地域に残されている歴史・文化的な資料（指定文化財・未指定文化財）が、失われてしまう危機が迫っていました。はじめに、地震による建物倒壊に巻き込まれてしまうことによる損傷、その後の風雨にさらされることによる損傷、続いて、建物の片付けに伴って廃棄されてしまう、または古物商に転売されてしまう恐れも危惧されました。

地震による被害を受けた市町のうち、富山県氷見市や石川県羽咋市は、1月中旬ごろにいち早く歴史・文化に関わる様々な資料を

捨てないようインターネットなどを通じて呼びかけ、救出依頼のあった土蔵などから資料を運び出しています。また、災害ゴミの集積場で、襖の下張に使われていた古文書を発見し、回収したケースもあったそうです。



被害を受けた国重要文化財（建築物）中谷家住宅



町指定文化財が納められた被害を受けた寺院の倉庫

能登町では、発災当初から国や県の指定文化財の被災状況を調査し、国指定史跡の真脇遺跡では県指定文化財の土器などが破損、国指定建造物の黒川中谷家住宅も門や塀が倒れたり、母屋が傾くなどの被害を確認しました。

1月中旬には未指定文化財の保護活動として「地域の貴重な「たからもの」を捨てないで！！」と題したポスターを作成し、避難所での掲示、町ホームページ・広報紙への掲載、町公式 SNS による周知を図りました。すると、「土蔵の中に古い書類があるがどうすればよいか」などといった問い合わせが多く寄せられました。

担当者が問い合わせがあったお宅などに訪問して現状を確認し、持ち出せるものであれば仮にお預かりしました。建物の状態が危険であったり、内部が物で散乱している、品物が多くて運び出せないといった場合は、国立文化財機構 文化財防災センターの文化財レスキュー事業を活用して、救出活動にあたることになります。レスキューでは国や県、民間団体に所属する大学教員、博物館学芸員などが作業にあたり、運び出した品物を段ボールやクッション材で梱包し、仮保管場所へ移送します。同時に運び出された品物のリスト化もおこない、濡れてしまったなど状態が悪ものは、状態が悪化してしまわないように保存処理を施すこともあります。お預かりした品物は、期間を区切って保管し、その後の保管などについて所有者の方と協議することになります。

復旧・復興が進められている被災地ですが、壊れてしまったからといって、すべてを葬り去り、新しくしてしまうことは、本当の復興ではありません。東日本大震災や熊本地震でも、復興の中で地域の歴史や文化の継承にとりくみ、復興への原動力となったり、地域の活性化につながったケースもあります。地域の歴史や文化も一緒に継承されてこそ、本当の復興ではないでしょうか。



レスキューを待つ古文書



レスキュー後の保管施設



現在の位置: ホーム > お知らせ > 地域の貴重な「たからもの」を捨てないで！！

地域の貴重な「たからもの」を捨てないで！！

最終更新日: 2024年1月16日 (火曜日) 9時59分 コンテンツID: 2-24-4

地域の貴重な「たからもの」を
捨てないで！！



ご自宅に保管されていた古い文書(主に戦前まで)などがありましたら、また、廃棄されそうになっている現場を見かけたら、下記連絡先までご相談ください。
廃棄してしまうと、地域のご存知ことのできる「たからもの」が永遠に失われてしまいます。
町の歴史・文化を継承する歴史・文化遺産(未指定文化財)も失わないために、ご協力をお願いします。
なお、指定文化財を所有される方で、文化財が損傷した、地震の影響で保管が困難といった場合は、下記までお問合せください。

お問合せ 高田通神橋文庫 電話 0768-4800
能登町教育委員会事務局 文化財係 電話 0768-8537

歴史・文化遺産を捨てないで！！

ご自宅に保管されていた古い文書(主に戦前まで)などがありましたら、また、廃棄されそうになっている現場を見かけたら、町文化財担当までご相談ください。
廃棄してしまうと、地域のご存知ことのできる「たからもの」が永遠に失われてしまいます。
町の歴史・文化を継承する歴史・文化遺産(未指定文化財)も失わないために、ご協力をお願いします。

なお、指定文化財を所有される方で、文化財が損傷した、地震の影響で保管が困難といった場合は、町文化財担当までお問合せください。

お問い合わせ先

教育委員会事務局 お問い合わせ
〒927-0492 石川県鳳珠郡能登町宇出津ト宇50番地1
電話番号: 0768-62-8537
FAX番号: 0768-62-8538

関連情報

文化財の破棄防止を呼び掛ける広報
(能登町 HP)

能登町文化財レスキュー-News^{ニュース}

第1号 発行日：令和6年4月5日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは？

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

文化財レスキュー活動報告

【3月29・30・31日 鵜川 河合家】



鵜川河合家での作業風景



久田船長の写真

河合家は、加賀藩に仕える武士であったといわれ、鵜川に住むようになってからは、藩の役人を務めていたようです。

今回のレスキュー活動では、文化財防災センターや県・町の専門職員、大学教授や博物館学芸員らでつくる「いしかわ歴史資料保全ネットワーク」（いしかわ史料ネット）から約20人が参加し、家屋裏の土蔵から歴史・文化資料を運び出しました。

古いものでは、江戸時代の村役人や土地に関わる古文書のほか、弘化



警防団の制服と関係書類



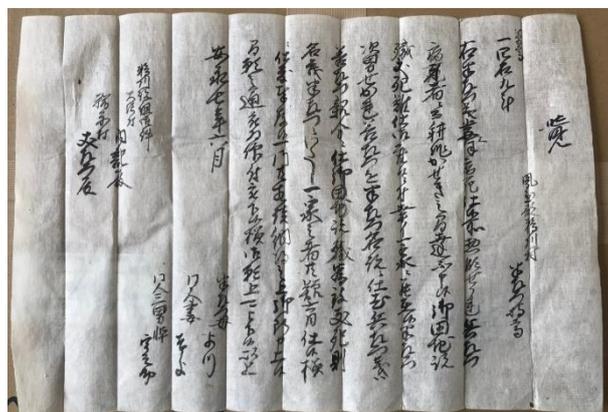
鵜川町役場前での記念写真（左） 鵜川町政實施期成同盟會看板（右）

4年（1847）と書かれた漆器が収納された木箱が見つかりました。また、明治36年（1903）に青函連絡船「東海丸」が津軽海峡で貨物船と衝突沈没した際、人命救助のために殉職した久田佐助（享年38）船長の写真など関連する品物も確認しました。その他、消防や災害などの防護に従事した「警防団」の制服や関連書類、「鵜川町政實施期成同盟會」の看板、鵜川町役場前での記念写真など、地域の歴史を物語る様々な資料が確認されました。

土蔵から運び出された資料は、クッション材や段ボールなどを使って丁寧に梱包され、町の施設に運び込まれました。

発見された資料解説

安永7年（1778）3月に鵜川村半左衛門（河合家当主）が病死し、その跡職（家督や耕作地など）について、惣領（家督継承者）の倅である兵左衛門（半左衛門長男か）が「病身者」のため、善左衛門（半左衛門次男）に「半左衛門」の跡職を相続させることを一門（親類一同）が願ったものです。宛所の「大沢村内記・稲舟村丈左衛門」は両名とも十数の村を指揮・監督する十村役です。



鵜川村半左衛門病死に付跡職相続願案

『能都町史 第三巻（歴史編）』には、河合家の先祖由緒帳が紹介されており、跡職を相続した半左衛門（後に六郎兵衛と改名か）は、山林資源をつかさどる「山廻役」などを勤めています。この他にも様々な資料が確認され、河合家の歴史を知る貴重な資料です。

資料解説文・いしかわ歴史資料保全ネットワーク 岩田裕斗

能登町文化財レスキュー^{ニュース}-News

第2号 発行日：令和6年4月15日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは??

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

文化財レスキュー活動報告

【4月1日～ 宮犬 弥勒院】

4月1日から宮犬の弥勒院では、ボランティア団体による文化財の救出活動がおこなわれました。同院は元旦の地震により、本堂の建物や仏像などが損傷する被害を受けています。

救出活動は、地震により倒壊してしまった本堂横の明神堂を中心に実施されました。ボランティアの方々



倒壊した弥勒院明神堂での作業風景



救出された壊れてしまった仏像



が周囲に散らばっていた瓦などの瓦礫を撤去したあと、堂の屋根に穴を開けて内部への進入を試みました。中からは、建物の倒壊に巻き込まれて損傷してしまった木造の仏像や石仏、仏具などが見つかかり、外へ運び出されました。

住職によると、この堂には、かつて松波にあった神宮寺の本尊などが安置されていたということです。住職は、「大切な仏像などを救出してもらい、大変ありがたい」と話していました。

救出された仏像などは、今後、被災した文化財を仮保管する能登町内の県有施設へ運ばれることになっています。

こんなところに古文書が！！

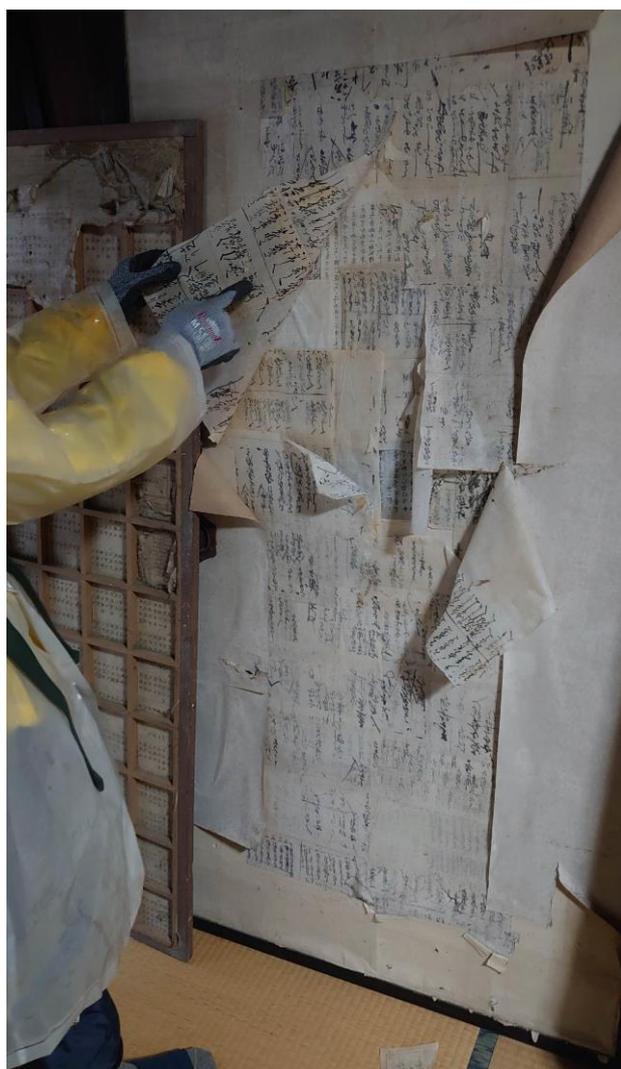
国や県、町が特に重要なもの（代表的なもの）を文化財として指定や登録をしていますが、文化財的価値があっても指定などを受けていない品物もたくさん存在します。そうした品物を「未指定文化財」と呼んでいます。地域の歴史や文化を知り、継承していくために欠かせない資料（史料）は、身近なところにあたりします。寺院や神社、旧家にはよくそういったものが良く残されていますが、目の前の田畑や山には昔の人々の生活の痕跡である遺跡（埋蔵文化財）が眠っていることもよくあることです。

震災を受けて未指定文化財の保護を町民のみなさんに呼びかけ、それに応じてご相談を寄せられる町民のみなさんのお宅を訪問すると、想像していない場所から資料が出てくることがあります。

よくあるのは、^{いすま}襖や屏風など、紙を何枚も貼り重ねて作られた品物の中に、古文書が下地（下張り）として使われているケースです。紙が貴重だった時代、いらなくなった文書（^{ほごし}反古紙）を再利用したもので、そうした古文書を^{したばりもんじょ}下張文書と呼んでいます。筆者は訪問先のお宅で屏風などを見つけると、破れた隙間から古文書が下張りに使われていないか必ず確認をしています。

下張文書を見つけて所有者の方にお見せすると、「こんなところに古文書があるの！」と驚かれることも度々あります。また、お茶碗を包んでいる紙に何か書いてあるということで見ると、江戸時代や近代の古文書が使われていて、筆者が驚かされたこともありました。

新聞紙を使って包装することが今でもありますから、同じような考え方といえるでしょう。そうした考えが、資料を未来に伝えるタイムカプセルとなっていたのです。



下張文書が見つかった屏風

本紙は町 HP からも見ることができます

https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20872



能登町文化財レスキュー^{ニュース}-News

第3号 発行日：令和6年4月15日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは??

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

文化財レスキュー活動報告

【4月10日・11日 寺分 平等寺】

平等寺は本堂裏で大規模な土砂崩れが発生し、町指定文化財などが保管されている倉庫が損傷して、出入りができない状態となっていました。

そこで、地元建設業者の協力で足場を設置し、2階の窓から内部への進入を試みました。内部は床が斜めになり、雨漏りも発生していました。掛け軸などに水がかかって濡れた状態（水損^{すいそん}）のものも多く、重ねられた本がくっついてしまったり（固着^{こちやく}）、虫やカビが発生してしいたりと、状態が良くない資料も数多く見られました。また、カメムシも時節柄多く、防塵マスクを使用して作業にあたりました。

倉庫内からバケツリレー方式で資料が運び出され、救出された資料はクッション材や段ボールを使って梱包し、保管施設へ運びこみました。

施設では、改めて救出された資料の状態を一つ一つ確認し、水損資料については、なるべく一点一点を不織布で包み、ビニール袋に入れて、段ボール箱に収納していきました。この後、冷凍保存をすることにより、資料のさらなる状態悪化を防ぐことができます。また、虫などが付着している場合は、できるだけハケなどを使って除去します。掛け軸などの絵画は、使われている絵具やデン



地震と土砂崩れの影響で損壊した倉庫



雨漏りでカビが発生している室内

ブシ糊の影響で固着する可能性があるため、慎重に広げて自然乾燥させるなどの処理をおこないました。今回の場合、石川県文化財保存修復工房の専門家にも依頼し、処置作業にあたっていただきました。



水損によりカビに覆われた掛け軸



救出した資料の梱包



保管施設で水損資料を不織布で包む



虫が付着していたため除去

発見された資料から

平等寺でのレスキュー作業中に、
版木ほんぎが大量に見つかりました。

版木は、印刷したい文字や絵を鏡に映ったように逆向きに木の板へ彫り出し、墨などを塗って紙に押し当てて印刷するものです。

寺院では、法要などに際してお札などを作って配布することがあり、版木がその作成に用いられました。見つかった版木は、仏の姿や梵字(サンスクリット語)、「御祈禱札」などと彫られたものなど多種多様で、

様々な場面で用いられていたのでしょう。寺院の活動を知ることができる、貴重な資料です。



本紙は町 HP からも見ることができます

https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20872



能登町文化財レスキュー^{ニュース}-News

第4号 発行日：令和6年5月1日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは??

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

文化財レスキュー活動報告

【4月24日～ 被災仏像修復】

時長の願成寺では震災により、^{そうちようてん}増長天と呼ばれる像が破損したほか、住民から津波被害を受けた仏像が預けられていました。

これらについて、仏像文化財修復工房（新潟県田上町）の松岡誠一さんが、文化財レスキュー事業の一環として応急処置をしてくださいました。

津波被害を受けた^{あみだりゅうそう}阿弥陀立像は、像本体に損傷は少なかったものの、津波をかぶって砂が付着し、台座や^{こうはい}光背が壊れた状態でした。松岡さんは、どの部材がどのように組み合わさっていたのか、足りないパーツがないかなど入念に確認した後、砂などの汚れをハケで丁寧に除去しました。その後、木くずを混ぜ合わせた接着剤で固定していき、足りないパーツは応急的に木材を切って補い、像が立っていられる状態にしていきました。増長天像は落下して腕と光背が取れていたため、元のように固定していきました。



願成寺で阿弥陀立像修復の様子



弥勒院の弥勒菩薩坐像修復の様子

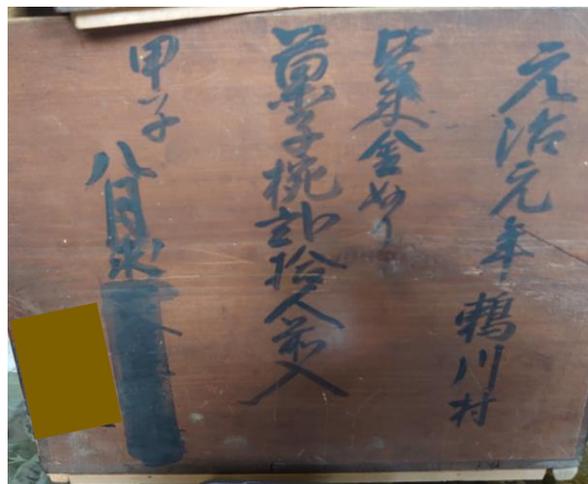
松岡さんによると、阿弥陀立像は光背が透かし彫りのようになっていることから、江戸時代初期～中期ごろのもの、増長天像は平安時代に地元の仏師によって造られたものではないかということでした。

この日から数日かけて、町内の寺院で応急処置作業が実施されました。今後も、町内の仏像などの修復に携わっていただく予定です。

年月日を書く習慣

筆者の大正生まれの祖父は、新しい冷蔵庫を買った時、ガムテープに購入年月日を書いて扉の隅に貼り付けていました。今では、そういうことをする方はあまりいないと思いますが、昔の人は豆に年月日を書いていたのだと思うことがあります。

例えば、被災した土蔵を整理していた町民の方から、木箱になにか書いてあるから見て欲しいと連絡がありました。お宅を訪問すると、漆器が保管されている木箱の蓋の表側に「元治元年(1864年)鶴川村 皆朱金ぬり 菓子椀(ふた)拾人前入 甲子 八月求」と書かれたものや、木箱の蓋の裏側に「天保十四年(1843年)卯霜月吉日」と書かれているのを見つけました。いずれも江戸後期の年号が記されているケースで、こうした年代が書かれていると作製された時期が判明し、資料的な価値も増します。所有者の方に内容を説明し、大切に保管していただくようお願いしました。



漆器と箱書き

漆器を活用する取り組み

文化財レスキューの際には、多くの漆器類を目にします。昔は、祭りの「よばれ」や「直会」^{なほらい}で使っていたのですが、今では仕出しを利用するなどして、しまい込まれていることが多くなっています。そのため、所蔵者からは、「破棄する」または「別の引き取り手がいないか」との声が聞かれます。町としても大量の漆器を引き取って保管することは、保管場所も限られているため難しく、江戸時代のものなどに限らざるを得ない状態です。

そんな折、一般社団法人・能登地震地域復興サポート*が、古い漆器を引き取り、必要な方へ譲る活動をはじめられました。文化財レスキューに関する問い合わせを受け、町教委担当職員が現場を訪問。その際に漆器類が確認され、所有者が破棄または譲渡を希望されている場合、能登地震地域復興サポートへ情報提供をおこなうこととしました。また、同サポートの活動の中で歴史資料等を発見した場合は、町教委へ情報提供をおこなうこととしています。

本紙は町 HP からも見ることができます

https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20872



能登町文化財レスキュー^{ニュース}-News

第5号 発行日：令和6年5月1日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは??

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

文化財レスキュー活動報告



水田へ落ちている石材の引き上げ作業

【4月28日 最安寺・萬福寺】

瑞穂の最安寺には、町指定文化財の石造五輪塔が3基所在します。今回の地震で、五輪塔が崩れてしまい、一部石材が3mほど土手下の水田へ落ちていました。

28日には、専門家らでつくる「いしかわ史料ネット」会員の皆さんがご協力してくださり、五輪塔の修復作業にあたりました。水田へ落ちていた20キロほどある石材にサラシを巻き、さらにサラシを長く伸ばし、人力で土手上へ引っ張り上げました。そのあと、ほかの落ちてしまった石材とともに元の形へ慎重に組み上げていきました。

最後に、再び地震が起こっても崩れ落ちないように、五輪塔周辺に杭を打って縄で周囲を囲う作業もおこないました。

この日の午後には、松波の萬福寺でも会員のみなさんのご協力を得て、作業をおこないました。地震によって本堂内の仏像が倒れたり、仏像を安置している棚が壊れて傾き、危険な状態になっていました。

作業では、仏像の状態を確認しながら、慎重に棚の上から仏像を下ろし、本堂内に並べていきま



五輪塔の修復作業



五輪塔周辺へのくい打ちとロープ張り作業



萬福寺の仏像移動作業

した。揺れの影響か、像の背後に取り付けられている光背がはずれているものが多く、これ以上破損しないように丁寧に運んでいきました。

地震などで破損した仏像類については、今後、応急的な修復作業をおこなう予定です。

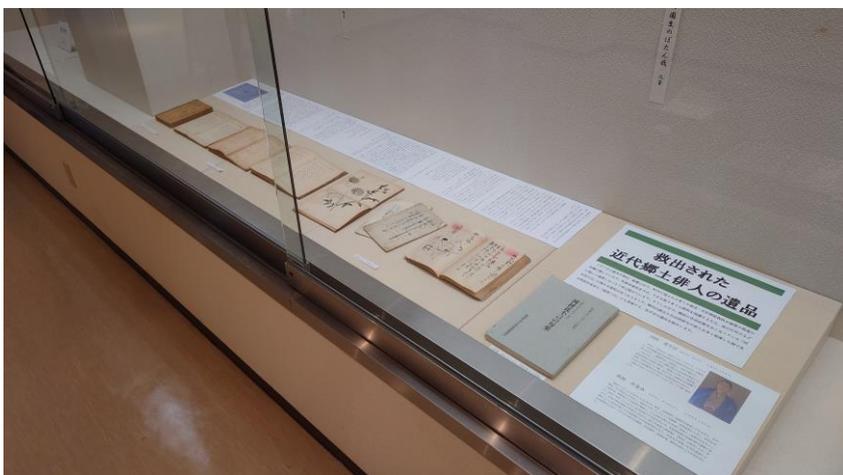


地震で壊れた仏像

能登町立美術館 緊急展示企画 「救出された近代郷土俳人の遺品」

1月1日の震災の復旧・復興の中で、町内に残された多くの歴史・文化関係資料が廃棄や散逸の危機に瀕しています。町教育委員会では、できる限り多くの資料を保護するため、家の片付けなどに際して廃棄しないよう呼び掛けています。そうした中で、戦前に作詩活動をおこなっていた「河村花不言」に関する資料が見つかりました。これを受けて、種田山頭火たねださんとうから自由律俳句の俳人を多く指導した師である荻原井泉水の紀行文「能登三日」にも登場する、花不言の遺品を6月30日（日）町立美術館で公開しています。

かわむら かなげん



河村花不言の遺品

郷土史家の小林篤二氏がまとめた『河村花不言句集』、河村花不言の自筆俳句や俳画、病床の花不言が『佐藤春夫詩集』に書いたメモ、河村花不言の句が掲載された雑誌など8点です。

現在、小企画展示「能登町の俳諧 江戸時代の俳人たちとその句」、美術作品展示「羽根万象作品で見る俳諧の風景」を開催中ですので、あわせてご覧ください。

本紙は町 HP からも見ることができます

https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20872



能登町文化財レスキュー^{ニュース}-News

第6号 発行日：令和6年6月1日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは??

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

文化財レスキュー活動報告



像のホコリの除去作業



仏画の状態を確認している様子

【5月16日 宮犬の弥勒院】

弥勒院は震災により、本堂などに被害を受け、雨漏りが発生するなどしています。この日は、文化財防災センターの職員ら10人が参加し、仏像や掛け軸などを被災した建物から救出し、安全な場所に保管する文化財レスキューが行われました。

本堂では、救出対象となる位牌や仏像のホコリを丁寧に払ったあと、写真をとり、リストに書き込んだあと、^{うすようし}薄葉紙と呼ばれる文化財を取り扱うための紙で梱包していきました。

また、仏などが描かれた掛け軸は、中を開いて状態を確認しながら写真を撮り、薄葉紙などで梱包していきました。

このあと、段ボールにまとめて収納するなどの梱包作業が終わったものから車に積み込み、町内の保管施設へ運ばれていきました。



梱包された仏像類



車へ積み込む作業

文化財レスキューで新しい発見も

文化財レスキューには、多くの専門家が関わるため、新知見を得られることがあります。

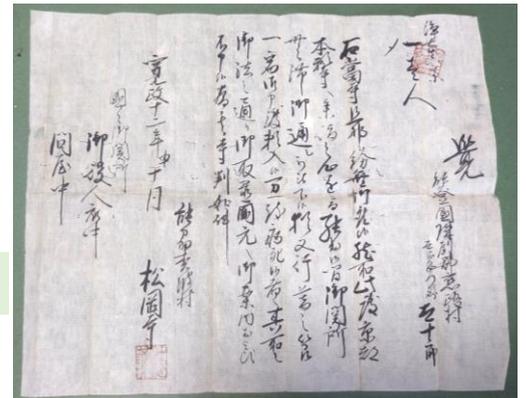
専門家によると、弥勒院の本尊が安置されていた厨子について、取り付けられた金具の細工が江戸初期～中期の制作と考えられるそうです。また、京都で修行した金沢の職人の作ではないかとの見解でした。

当院には、貞享5年（1688）に作られた初代宮崎寒雉の梵鐘があります。寒雉は中居金鋳物師の出身。父宮崎吉綱は、前田利家の命により金沢へ移住しました。寒雉は藩の御用釜師として、梵鐘や茶釜を数多く制作しています。この梵鐘を作らせた当時の住職は、弥勒院6世の良雄法印で、後に木食上人と尊敬された傑出した人物でした。

厨子の作製が同じような時期であるため、お寺の建物や仏具などを貞享年間ごろに、良雄法印と一緒に整えたのかもしれない。



本尊が安置されていた厨子と金具



往来手形と包み紙・板

江戸時代の旅事情

江戸時代は手軽に旅に行くことができませんでしたが、寺院や神社への参拝については、誰でも行くことが認められていました。旅行に行く際には、自分の檀家寺に往来手形の発行を求めました。往来手形は、自分の身元を証明するもので、右の史料は寛政12年（1800）珠洲郡恋路村の太十郎が松波村の松岡寺に依頼して発行してもらったものです。太十郎は京都の本願寺へ参拝するので関所を滞りなく通してほしいこと、夜には宿を提供してほしいこと、もし病気で死んだ場合はその土地の作法で埋葬し、故郷へは知らせなくてもよいことが記されています。

この資料は、太十郎の子孫である杉畠家の仏壇の中から出てきました。薄い板2枚で挟み込んで、「寺判」と書かれた紙に包まれていました。板には上下に切り込みがあるので、紐で固定していたのかもしれない。旅の際に汚れたりしないよう、こうした工夫をして持ち運んだのでしょうか。

本紙は町 HP からも見ることができます

https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20872



能登町文化財レスキュー^{ニュース}-News

第7号 発行日：令和6年6月1日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは??

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

文化財レスキュー活動報告

【5月21日 宇出津 川谷家】

川谷家では、文化財防災センター、いしかわ史料ネット、町職員ら10人が作業にあたりました。品物がある2階に上がる階段が壁の倒壊で一部塞がれていたため、かろうじて空いた隙間を通っての搬出作業となりました。

地震の影響で物が散乱した状態のなか、部屋の奥からは明治時代の帳簿などを救出しました。屏風も多く、内側に古文書が使われているものもありました。掛け軸の中には、日本陸軍軍人で日露戦争の旅順攻囲戦で知られる乃木希典の書とみられるものもありました。また、屏風では、宇出津ゆかりの作品とみられるものも確認されました。



木箱に納められていた近代の古文書（川谷家）



宇出津ゆかりの作品とみられる（川谷家）

【5月25日 宇出津山分 久田家】

久田家では、いしかわ史料ネット、町職員ら11人が作業にあたりました。

前半は、一般社団法人・能登地震地域復興サポートと協力して、輪島塗の御膳約50人前などを運び出しました。漆器はこの後、復興サポートの手で洗浄され、希望者に引き渡されます。後半は、江戸時代から近代の古文書や、下張り



久田家でのレスキュー作業

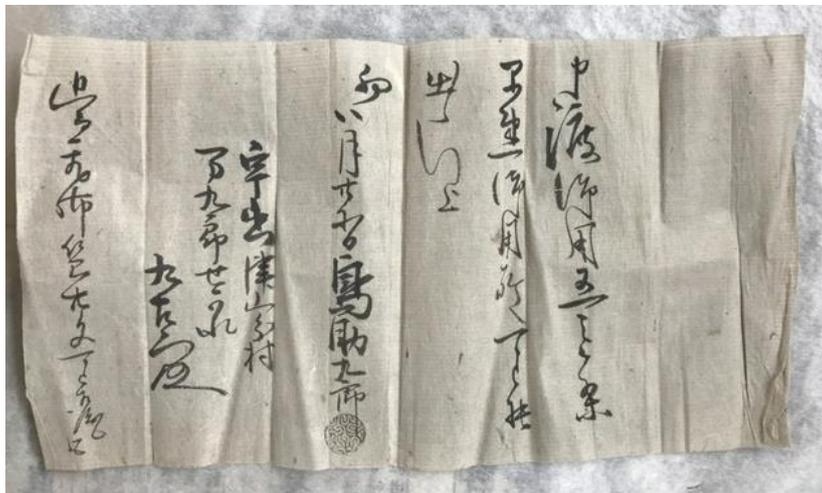
文書のある屏風などを運び出しました。江戸時代の文書では、宇出津山分村の経費に関する帳簿や、土地取引に関する書面が確認されました。近代のものでは、宇出津町時代の予算書など、当時の行政について知ることができる資料が多く見つかりました。

発見された資料解説

久田家は、代々万九郎を屋号とし、山分村で村役人を勤めた家であり、『能都町史第参巻（歴史編）』（1982年）に所蔵資料の一部が紹介されています。

今回の文化財レスキューでは、町史に掲載された資料のほかにも様々な資料が確認されました。

新たに確認された資料では、十村役である島助九郎（越中国砺波郡権正寺村出身の十村役、奥郡（珠洲・鳳至両郡）



御用を勤める）から「申渡御用」があるため、御用所へ出役するように命じられています。「卯八月廿五日」と史料にありますが、『能都町史』に掲載されている久田家文書の中に、島助九郎から「山分村組合頭役」（村役人）に任命された資料に、「乙卯（安政二年）八月」とあるため、今回確認された資料も同時期のものだと考えられます。

この資料以外にも、切高売渡証文などが多数確認され、今後の資料整理によって、宇出津山分地域の歴史を明らかになることが期待されます。

資料解説文・いしかわ歴史資料保全ネットワーク 岩田裕斗

中国銭がなぜここに？

レスキューの依頼を受けて訪れたとある小木の民家から、中国の銅銭が出てきました。調べてみると、時代は日本という江戸時代のもので、中国には清という国がありました。

当時の日本は限られた外国の国々としか貿易をしていませんでしたが、清は相手国の一つでした。貿易の中で中国銭が紛れ込み、当時の日本で流通していた寛永通宝に交じって使われていたそうです。こうした中国銭を輸入銭といいます。



小木は、江戸時代には北前船と呼ばれる輸送船の停泊地として栄えていました。北前船に積み込まれた商品の取引で、輸入銭が紛れ込んだのかもしれない。

本紙は町 HP からも見ることができます

https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20872



能登町文化財レスキュー^{ニュース}-News

第8号 発行日：令和6年7月1日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは??

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

文化財レスキュー活動報告

【6月6日 九里川尻 中村家】

この日は、文化財防災センターの職員や町職員、大学教員や博物館学芸員でつくる「いしかわ史料ネット」、およそ10人がレスキュー隊員として参加しました。

隊員らは、被災した土蔵内へ入り、タンスや長持などに、史料が入っていないか順番に確認していきました。

見つかった史料の中には、江戸時代の婚姻や宗教に関する古文書、明治時代の土地管理に関する文書などがありました。また、文政4年と書かれた、およそ200年前の弓も確認されました。

隊員が史料の状態を確認しながら、段ボールなどを使って丁寧に梱包し、車に積みこんでいきました。



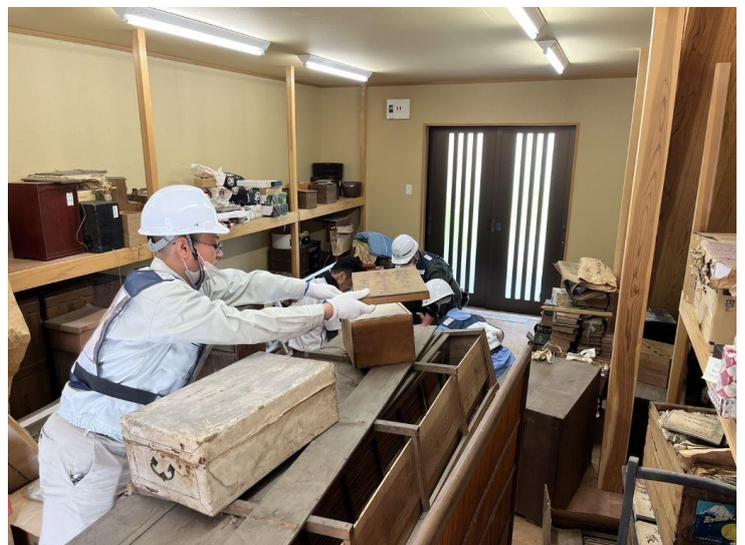
中村家での作業の様子

【6月11日 宇出津 室谷家】

この日は、能登町職員、文化財防災センター、いしかわ史料ネットから12名が参加しました。

公費解体が予定されている母屋と倉庫にあった、近世から近現代の古文書・典籍など約30箱を一時保管場所へ搬入しました。

網元や町役人を務めた家柄であったことから、漁業関係の数多くの書類が残っていたほか、寛文



室谷家での作業の様子

10年（1670）の「宇出津町御印」（藩主御印による年貢割付状）の原本も確認しました。

書籍類もたくさん残されており、この地で培われた文化活動の足跡、豊かさを物語る数々の資料が確認されました。

発見された資料解説

6月6日（木）に九里川尻の中村家で行った文化財レスキューでは、近世・近代の古文書、仏教関係の和本・軸などの史料が確認されました。近世には肝煎を務めた中村家の史料の中から2点紹介します。

【百姓人々持高帳】

「持高帳」とは、村人の田畑の収穫高を集計し、村の総収穫高を記載した帳簿のことです。

文化2年（1805年）に記されたこの史料には、当時の珠洲郡九ノ里川尻村の村高は127石であり、村人が21名いたことが記されています。

帳簿は、九里川尻村を含む村々を束ねる木郎組十村の宗玄村忠左衛門から加賀藩の改作奉行へ提出され、この史料は控えとして、肝煎だった中村家が所持していたとみられます。

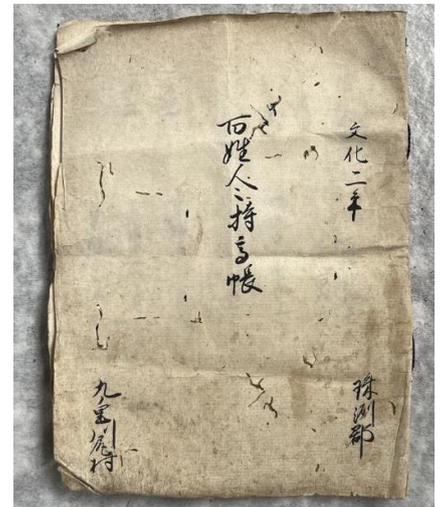
【縁組願】

この史料は、安政4年（1857年）に、九里川尻村茂右衛門の息子と鹿野村（珠洲市）久右衛門の妹の縁組を認めてほしい旨を記した願書です。

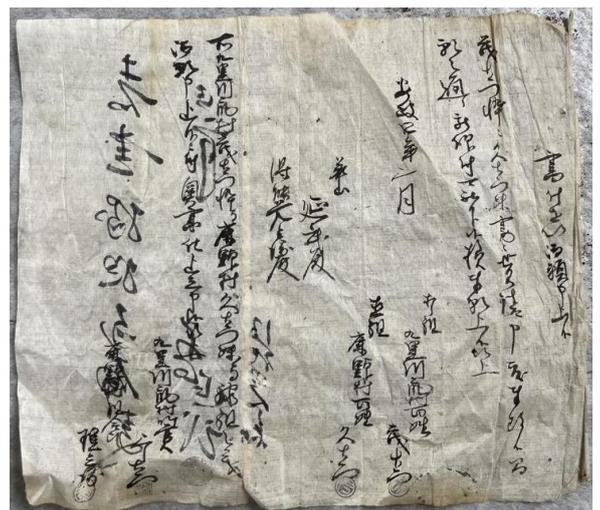
両人の親族から出された願書の奥書には、九里川尻村の肝煎（村長）の三郎右衛門、鹿野村の組合頭（肝煎の補佐役）の理兵衛からのお墨付きも記されています。更には、九里川尻村を含む村々を束ねる木郎組十村の若山延武、鹿野村を含む村々を束ねる直組十村の得能覚兵衛に宛てられ、そのお墨付きを得て、中村家の先祖であろう九里川尻村肝煎の三郎右衛門が願書を保管していたとみられます。

縁組を認めてもらうには、色々な人のお墨付きが必要だったことが分かります。

今回紹介した2点の他、当時の九里川尻村の村落構成や村人の様相を知る上で、貴重な史料をレスキューすることができました。



百姓人々持高帳



百姓人々持高帳

本紙は町HPからも見ることができます

https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20872



能登町文化財レスキュー^{ニュース}-News

第9号 発行日：令和6年7月1日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは??

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

文化財ドクター事業

歴史的建造物を対象に、専門家を派遣し、被害の調査、応急措置及び文化財としての価値を損なわない復旧に向けた技術支援等を行う事業です。文化財指定等を受けていない建造物でも対象となります。

6月7日には、地震で屋根などに被害を受けた、町指定文化財となっている宇出津白山神社の本殿で調査がおこなわれました。現場には、建築の専門



家3人が訪れ、目視で被害箇所を観察しながら、測定機器を使って本殿の図面を作成していきました。このあと、所有者に調査結果の概要が説明され、今後の対処方法などについてもアドバイスをしていました。

柳田教養文化館で子ども向け展示開催

文化財レスキュー活動について知っていただくため、柳田教養文化館でレスキューされた品々を展示するミニ出張展示「救出された地域の歴史資料」（6月3日～）を開催しました。

磨製石斧や往来手形といった古文書、日本や中国の古銭などを展示しました。また、期間中2回実施した説明会では、屏風などの下張文書についても現物を見てもらいながら説明しました。

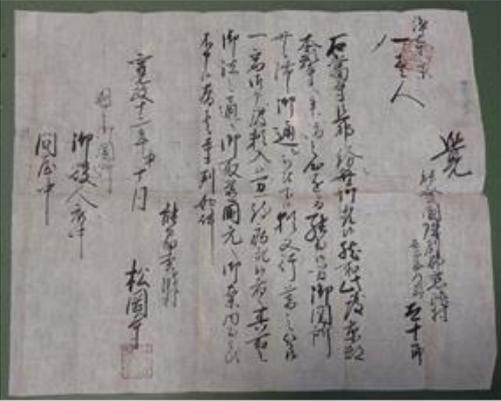
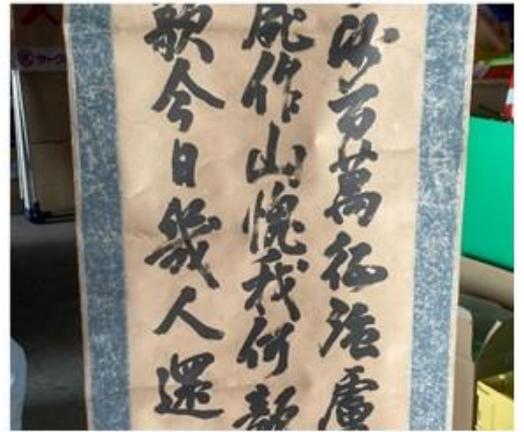
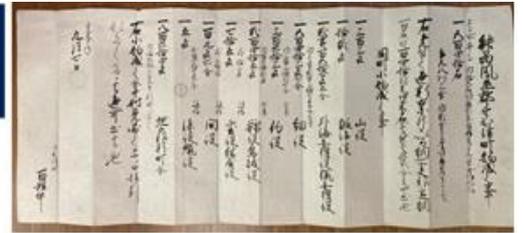




能登町立美術館
特別展示

令和6年
能登半島
地震

救出された地域の 歴史・文化資料の



～同時開催～
小企画展示
石川県地図で見る
能登町の近現代
能登町のルーツである1町12村が
明治21年に誕生して135周年
幕末から現代にいたる石川県地図や
古写真で町村の歩みまじります
【無料】

地震後に展開されている文化財レスキュー事業の中で見つけた、様々な地域の歴史・文化に関する史料を展示します
教科書にも載っている著名人の作品も…

期 間 令和6年7月9日(火)～9月29日(日)
場 所 能登町立美術館(羽根万象美術館)
開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
※休館は毎週月曜日(月曜が休日・祝日の場合は開館、翌日休館)
入場料 大 人 330円(団体220円)
小・中・高 160円(団体110円)
お問合せ ☎(0768)62-3669(美術館)

能登町教育委員会

本紙は町 HP からも見ることができます
https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20872



文化財レスキュー・本紙に関するお問い合わせ ☎(0768)62-8537 (能登町教育委員会事務局)

能登町文化財レスキュー^{ニュース}-News

第10号 発行日：令和6年8月1日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは??

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

本両寺の珠洲焼修復

小間生の本両寺には、町指定文化財の珠洲焼が約20点所蔵されています。この珠洲焼は、同寺の旧墓地を整理した際に出土したものです。室町時代中期（14～15世紀前半）のものと考えられ、四耳壺や灯明台などが発見されています。境内の施設で保管されていましたが、地震により転倒、破損した状態となっていました。



珠洲焼の補修作業

7月13・14日、町の要請を受けた石川県考古学研究会の会員10人が同寺を訪れ、割れた珠洲焼の補修と展示作業を実施しました。会員らは、接着剤で割れた破片をつなぎ合わせたり、隙間を石膏で補強したりしていきました。また、珠洲焼を全方向からカメラで撮影し、3Dデータでの記録保存もおこなわれました。このあと、再び展示をするため展示ケース内の掃除と、珠洲焼にはテグスなどを使って転倒しないように固定する措置も施されました。



珠洲焼の再展示作業



珠洲焼の3D撮影

文化財レスキュー活動報告

【7月30日 越坂 九十九家】

越坂の九十九家は、江戸時代に肝煎をつとめていた家柄で、大きな家屋や土蔵が今でも残されています。

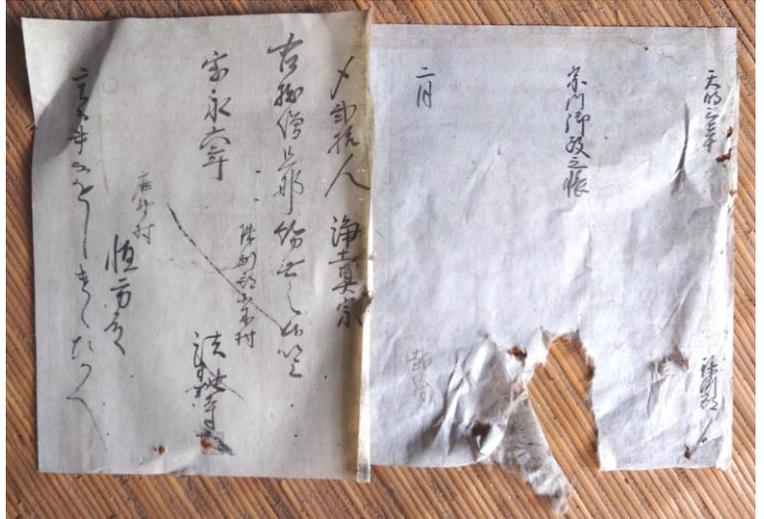
当日は、文化財防災センターから3人、町職員2人の計5人、また、漆器を運び出すために民間団体から3人が参加しました。

作業では、江戸時代後期から明治時代に作られた漆器、200人前以上を運び出しました。さらに、江戸時代から明治・大正頃の下張文書がある屏風や襖を運び出しました。文書の中には、宝永6年（1709）の年号が記された古文書や、天明3年（1783）の宗門御改之帳（宗門人別帳）などが確認できました。

越坂の歴史を知るために必要で、貴重な資料ばかりでした。



九十九家での作業風景

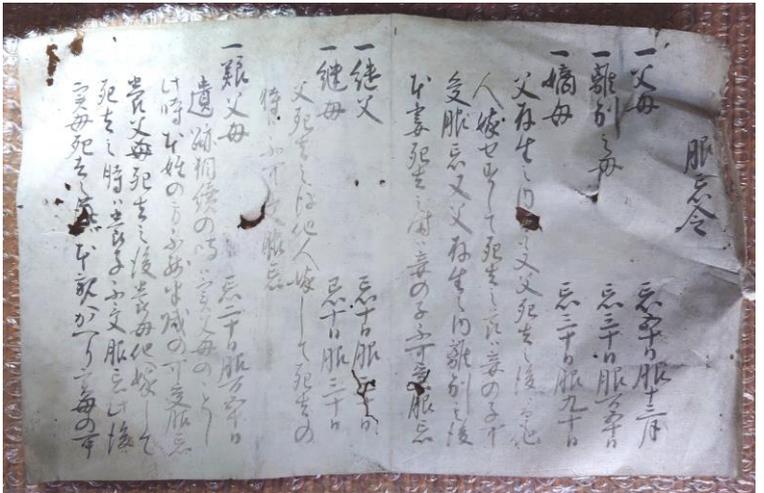


見つかった古文書

発見された史料解説

九十九家では、冒頭に「^{ぶっきれい}服忌令」と記された古文書が見つかりました。服忌令は將軍徳川綱吉が貞享元年(1684)、近親の死に際して喪に服すべき期間などを定めたものです。以後、その追加補充がしばしば行われ、とくに儀礼に際しての規定は厳格でした。やがて諸藩の庶民にも広く習俗として浸透していきました。

九十九家文書の服忌令はいつ作成されたものかは不明ですが、「服」（喪に服する期間）と「忌」（謹慎期間）が父母、離別之父母、嫡母（正妻）、継父、継母、養父母の別に記されています。



本紙は町 HP からも見ることができます

https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20872



能登町立美術館 特別展示 救出された地域の歴史・文化資料 9月29日(日)まで開催中